

～関係機関が連携し、逃げ遅れゼロと社会経済被害の最小化を目指す～

○令和元年8月豪雨において甚大な被害が発生した、六角川水系における今後の治水対策の方向性として、関係機関が連携し「**六角川水系緊急治水対策プロジェクト【最終取りまとめ(案)】**」を取りまとめました。

○今後、本プロジェクトに基づき、関係機関と連携を図りながら、具体化に向けた検討及び実践を行います。

## 「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」 ～六角川水系における今後の治水対策の方向性について～

### ①被害の軽減に向けた治水対策の推進 (河川における対策)

- 六角川水系牛津川では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防からの越水が複数発生するなど、治水施設の限界を超えるような事象が発生

→被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。



佐賀県多久市内における浸水被害状況

### ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進 (流域における対策)

- 有明海に注ぐ、六角川水系は大きな干満差と低平地の佐賀平野の地形特性により、これまでも度々支川の氾濫被害を被ってきた。

→地域及び関係機関等が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。



佐賀県小城市内における浸水被害状況

### ③減災に向けた更なる取組の推進 (まちづくり、ソフト施策)

- 堤防からの越水や支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難であった。

→住まい方の工夫と、きめ細かな情報提供等を関係機関が連携し実施する事により、「減災」の取組を推進する。



佐賀県大町町内における浸水被害状況

#### ＜主な取組メニュー＞

- 被災施設等の迅速な復旧
- 河川水位を低下させるための取組  
(例)・遊水地等の洪水調整施設の整備  
・洪水が円滑に流れやすい河道整備の推進
- 施設規模を上回る洪水に対する取組  
(例)・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策の検討

#### ＜主な取組メニュー＞

- 支流の流出抑制・氾濫抑制の取組  
(例)・ため池等既存施設の有効活用  
・クレークを活用した雨水貯留容量の確保  
・雨水貯留施設、透水性舗装の整備等
- 既存排水機場の耐水化の取組  
(例)・排水機場の耐水化の推進
- 浸水被害を軽減する取組  
(例)・排水機場等の整備
- ”逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備

#### ＜主な取組メニュー＞

- 住まい方の工夫に関する取組  
(例)・「まちづくり」による水害に強い地域への誘導  
・住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの推進
- 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組
- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
- 要配慮者利用施設の避難に関する取組の推進
- 大規模災害時における迅速な復旧支援の取組

# 六角川水系緊急治水対策プロジェクト【最終取りまとめ(案)】

## ①被害の軽減に向けた治水対策の推進（河川における対策）

### <令和元年8月豪雨の課題>

- 観測史上最大級の豪雨が発生
- 六角川水系牛津川では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防からの越水が複数発生。武雄川等の県管理区間においても河川からの氾濫が発生
- 短時間に集中した豪雨の影響により、排水機場稼働中も支川の水位が急激に上昇
- 河川水位が計画高水位を超過し、堤防決壊の恐れがあったことから、排水ポンプの運転調整を実施

### <今後の治水対策の方向性>

⇒被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。

### <主な取組メニュー>

- 被災施設等の迅速な復旧
  - ・堤防、護岸、排水機場等の被災施設の復旧
- 河川水位を低下させるための取組
  - ・遊水地等の洪水調整施設の整備
  - ・洪水が円滑に流れやすい河道整備の推進
- 施設規模を上回る洪水に対する取組
  - ・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策の検討
  - ・既存の排水機場、ダム、遊水地、堰などの河川管理施設について、更なる洪水被害軽減の可能性について検討を行うとともに、必要な対策を実施
- 河道・管理施設等の適切な維持管理
  - ・堤防や堰、水門等の適切な維持管理
  - ・河道内の堆積土砂の撤去、樹木・ヨシ等の植生管理

# 六角川水系緊急治水対策プロジェクト【最終取りまとめ(案)】

## ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進（流域における対策）

### <令和元年8月豪雨の課題>

- 有明海に注ぐ六角川は、直轄管理区間（約32km）の約9割が潮汐の影響を受け、大きな干満差と低平地の地形特性により、これまでも度々支川の氾濫被害を被ってきた。
- 令和元年8月豪雨においても短時間に集中した豪雨の影響により、ほぼ全域において支川や水路等が氾濫し、甚大な浸水被害が発生。

### <今後の治水対策の方向性>

⇒地域及び各関係機関等が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。

### <主な取組メニュー>

- 支流の流出抑制・氾濫抑制の取組
  - ・ため池等既存施設の有効活用
  - ・クリークを活用した雨水貯留容量の確保
  - ・雨水貯留施設、透水性舗装の整備等
  - ・各支川、水路における氾濫抑制対策
- 浸水被害を軽減する取組
  - ・排水機場等の整備
- ”逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備
  - ・水位計、空間監視カメラ等の整備によるリアルタイム情報を発信
  - ・浸水予測情報等の発信
  - ・排水機場の運転調整情報の発信
- 既存排水機場の耐水化の取組
  - ・排水機場の耐水化の推進

# 六角川水系緊急治水対策プロジェクト【最終取りまとめ(案)】

## ③減災に向けた更なる取組の推進（まちづくり、ソフト施策）

### <令和元年8月豪雨の課題>

■堤防からの越水や支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難であった。

- ①六角川上流の浸水想定区域未策定区間でも浸水被害が発生
- ②深夜から明け方にかけての洪水であり、避難出来ず、孤立した住民が多くいた。
- ③行政機関から発信される避難情報等が住民の避難行動に結びつかない面もあった。

■浸水常襲地帯にも関わらず、新興住宅が多く被災

■浸水に伴う油流出により被害が拡大

### <今後の治水対策の方向性>

⇒**住まい方の工夫と、きめ細かな情報提供等を各関係機関が連携し実施する事により、「減災」の取組を推進する。**

### <主な取組メニュー>

#### ■住まい方の工夫に関する取組

- ・「まちづくり」による水害に強い地域への誘導
- ・住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの推進
- ・不動産関係団体への水害リスク情報の提供と周知協力の推進

#### ■災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組

- ・水位周知河川の拡充、洪水浸水想定区域図の作成促進等による浸水リスク情報の周知
- ・支川の氾濫に着目したハザードマップ等を作成し、リスク情報を周知
- ・早期避難に向けた精度の高い降雨予測、水位予測体制の検討
- ・ケーブルテレビ、SNS、YouTube等を活用した情報発信の強化
- ・報道機関と連携した情報発信の強化
- ・浸水想定区域における企業、危険物管理施設への浸水リスク情報の提供

#### ■防災教育や防災知識の普及に関する取組

- ・水害の記憶の伝承
- ・マイ防災マップ、マイ・タイムラインづくりの推進
- ・地域住民や小・中学校生等を対象にした防災教育の推進
- ・学校における避難確保計画の作成と避難訓練の推進
- ・まちなかに浸水リスクを表示するまるとまちごとハザードマップの推進
- ・前線性豪雨に対応したタイムラインの普及促進

#### ■要配慮者利用施設の避難に関する取組の推進

- ・地域防災計画への位置付けの推進
- ・避難確保計画の作成と訓練の推進
- ・避難確保計画の作成につながる講習会の開催

#### ■大規模災害時における迅速な復旧支援の取組

- ・大規模浸水時において大型車両等が通行可能な堤防天端の確保
  - ・掘削残土等を活用した、緊急避難場としての高台整備
4. 防災拠点の整備、必要な資機材等の確保